

課コード	005117	作成日	平成20年3月31日
所属名	こども安全課	作成者	中道 充義

政策名(上位目的)
心豊かな青少年の育成
目の名称
青少年育成費

分野	部	課	施策・事務事業		
計画コード	款	項	事項		
科目コード	46	26	62	16	06 00
(旧科目コード)	46	26	65	02	
	46	26	65	06	

事業名	かわな野外活動センター管理運営事業	戦略性	部局
-----	-------------------	-----	----

事業概要	目的 (対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
	青少年の健全育成と、市民の健康増進を図るために設置された施設である。当センターでは、青少年及び市民が豊かな自然環境の中で、共同生活を通して情操や社会性を養い、心身を鍛え、また親子の対話や家庭教育機能を高めていくことを目的とした事業を展開している。	昭和 60 年	

活動内容
施設の管理運営は、平成18年度から利用料金制による指定管理制度を導入している。 指定管理者：(財)浜松市体育協会 期間：平成18年4月1日～平成22年3月31日
活動の概要 ・含営施設(少年自然の家)、野営施設を利用した小中学校・高校生の集団宿泊訓練、幼稚園等のお泊り保育、スポーツ少年団等の合宿などの受け入れと、炊飯体験、自然観察やクラフト制作の講師、沢登り、ハイキング等自然体験活動のプログラム全般にわたる指導。 ・自主事業 【豊かな感性と心身のたくまさを培う自然体験活動】 かわなネイチャーワールド...小中学生を対象とした宿泊自然体験講座、沢登り・キャンプファイヤー・天体観望などを実施、年5回。 かわなネイチャークラブ...全世代を対象とした日帰りの自然観察会・天体観望会、年8回。 宇宙へのチャレンジ教室...全世代を対象とした宿泊天体観察教室、クラフト制作・食品作りなどもあわせて実施、年4回。 【親子ふれあい事業の推進】 かわな家族ふれあいデー...家族やグループを対象とした宿泊自然体験講座、利用者が複数の活動プログラムから選択する、年8回。 家族自然探訪会...家族を対象として日帰り自然観察講座、自然観察と食づくり、年2回。 ファミリーキャンプ大会...家族を対象としてキャンプ大会、野外炊飯・キャンプファイヤー・天体観望・野外コンサート等、年1回。
利用者の動向 年間利用者の推移 H17:31,164人 H18:36,142人 H19:40,400人(対前年比:111.8)

事業の性格分類	実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業	ワークショップ提案事業
義務的事業 任意的事業	浜松市かわな野外活動センター条例・施行規則	×	×
事業運営方法	直営 一部委託 全部委託 補助等		

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
財源内訳	事業費(千円)	89,716	108,821	114,147	108,602			
	国庫支出金							
	県支出金							
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
内訳	一般財源	89,716	108,821	114,147	108,602			
	人件費	3,200	3,200	2,400	2,400			
計	人工単価	0	0	0	0			
	年間経費	92,916	112,021	116,547	111,002			
	受益者負担率	0	0	0	0			

性質別内訳		人件費	扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
平成18	3,200				106,237	389						2,195	
19	2,400				113,247	900						6,800	
20	3,200				106,302	800						1,500	

定量評価							
指標1		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
利用人数(利用者数÷目標利用者数) 目標:43,000人	目標	%	80	87	90	90	90
	実績	%	80	93			
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	112,021	116,547	111,802	109,447	109,447
単位当たり経費		千円/単位	1,400	1,253	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		89.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2							
		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%					
	実績	%					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	112,021	116,547	111,802	109,447	109,447
単位当たり経費		千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価			
過年度の実施内容			
平成18年度より指定管理者制度により財団法人浜松市体育協会へ委託			
H18年度利用者 36,142人 内訳 幼稚園・小中学校等の利用者 62.8% その他の利用者 37.2%			
事前評価	必要性	A 高い B C D 低い	(分析・理由) 青少年にとって自然体験や野外活動が、豊かな社会性を育てる重要な施設であり欠かせないものである。
	行政関与の妥当性	A 高い B C D 低い	(分析・理由) 施設運営にあたって、民間のノウハウを活かすことは行革推進のため必要な視点であるが、児童生徒等の集団宿泊という研修利用が主体の施設であり、教育活動の一環として、教育委員会の指導方針を反映できることも求められている。
事後評価	有効性	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない	(分析・理由) 小中高等学校の利用が拡大し、アンケートの結果においても利用者の97.3%が高い満足度を示しており、十分成果があがっている。
	効率性	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない	(分析・理由) 小中高等学校の利用が拡大し、費用対効果が向上している。
今後の事業展開			
規模			(分析・理由)
現状	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止		青少年にとって野外活動などの自然体験や集団での宿泊体験は、豊かな感性や社会性を育てる重要な手段であるところから、継続して実施することが必要である。
具体的な改善内容・事業の方向性等			
平成18年度指定管理者となり自主事業に工夫がみられ、利用者の拡大につながっている。			
(問題意識) 現在、子どもたちの成長段階での体験活動は、教育活動における重要性が指摘されている。このため、かわな野外活動センターは、幼稚園から小中学生を中心とした自然体験、集団宿泊・活動の場として利用され、その存在意義は高いものと考えている。現在の運営形態は、市の教育方針等を踏まえた中で利用者の活動に反映することができ、現時点では最もよい方法と考えている。しかしながら、将来的な展望に立った場合、このままの運営形態が、利用者(主に園児及び児童生徒)にとって最善であるか常時見直していく必要がある。			
(想定結果) 民間の実施が適当なもの 市の実施が適当だが改善を要するもの			
(備考)事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘			